

[成果情報名] 諫早湾干拓地におけるタカナの栽培適応性と春どり「三池タカナ」の収穫限界期

[要約] 「三池タカナ」は秋まき春どり栽培で収量性に優れ、病虫害の発生も少なく、大規模栽培に対応できる品目として栽培適応性は高い。春どりの「三池タカナ」は芯葉の展開が確認され始めた時期(抽苔開始期)から生育積算温度185℃(約21日後)が収穫適期であり、270～330℃(29～34日後)が収穫限界期である。

[キーワード] 諫早湾干拓、タカナ、栽培適応性、「三池タカナ」、「大葉ちりめんタカナ」、生育積算温度、収穫適期、収穫限界期

[担当] 総合農林試験場・企画経営部・干拓科

[連絡先] 電話0957-35-1272

[区分] 総合・営農(干拓)

[分類] 指導

-----  
[背景・ねらい]

諫早湾干拓地の土壌における加工・業務用野菜の栽培適応性について調査した。その中で、ツケナ類の代表としてタカナを選定し、その適応性と栽培法について検討した。

[成果の内容・特徴]

1. 秋まき春どり「三池タカナ」の16～18年度の調整収量の平均は 4,810kg/10aである。(図1)葉肉が厚く、品質も良好である。  
浅漬け用品種の「大葉ちりめんタカナ」は、16・17年の2カ年の平均で3,780kg/10aである。
2. 秋まき年内どりの栽培では、「大葉ちりめんタカナ」の調整収量は4,440kg/10、「三池タカナ」は3,440kg/10aであった。(図1)  
収量性から見て「三池タカナ」は秋まき春どりで、「大葉ちりめんタカナ」は秋まき年内どり栽培で適性が高い
3. 春どりの「三池タカナ」は2月下旬頃から急激に生育が進む。芯葉の展開が確認され始めた時期(抽苔開始期)からの生育積算温度と抽苔長の間には有意な相関が認められ、生育積算温度を説明変数( $x$ )としたときの抽苔長( $y$ )は、 $y = 0.0235x + 2.2452$  の回帰式で与えられる。(図2)
4. また、抽苔長と株重の間にも有意な相関が認められ、抽苔長を( $x$ )とする株重( $y$ )は、 $y = -16.116x^2 + 318.61x + 194.54$  の回帰式で与えられる。(図3)  
株重が1,600g(総収量 6,000kg/10a)を確保できる抽苔長は6.6cm前後であり、最高収量でかつ加工に耐える出荷の限界抽苔長は10cm前後である。
5. 抽苔開始期から6.6cm長に達するまでの生育積算温度185℃(3月上中旬の平均気温では約21日後)が収穫適期であり、10cm長に達するまでの生育積算温度 270～330℃(3月上～下旬の平均気温では約29～34日後)が収穫限界期となる。

[成果の活用面、留意点]

1. 収穫期の判定は、それぞれの地域の温度を参照することで他地域でも適用できる。
2. 本情報は、諫早湾干拓営農技術対策の指針へ反映させる。

[ 具体的データ ] 表1 タカナ栽培の耕種概要

作型	年次	播種	品種	収穫	栽植様式			窒素 施肥量 (kg/10a)
					畦幅 (cm)	株間 (cm)	株数 (株/10a)	
秋まき 春どり	16年度	10/29	青タカナ	03/15	60	40	4,167	17.4
			三池タカナ	03/30				
	17年度	10/17	青タカナ	03/03				28.5
			三池タカナ	03/23				
18年度	10/19	三池タカナ	03/17	60	37	4,505	28.5	
		青タカナ	12/22	60	40	4,167	19.5	

注) 青タカナ=「大葉ちりめんタカナ」

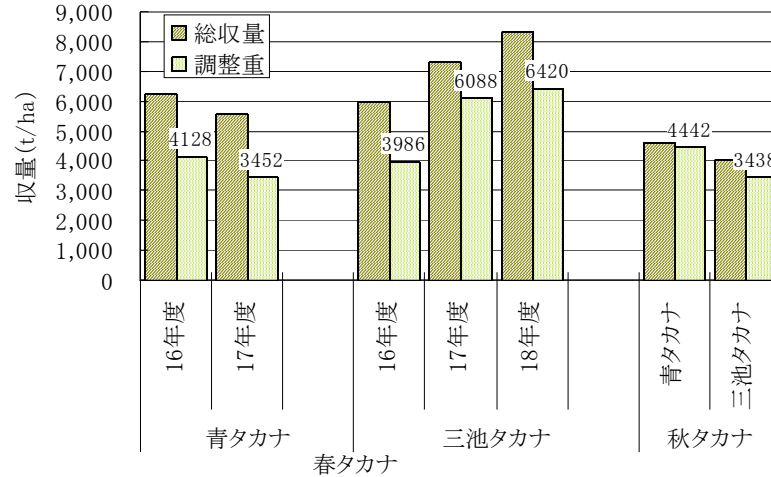


図1 タカナの収量

注) 調整重は、外葉2～3枚を除去して出荷調整したあとの収量  
図中の数値は調整収量を示す

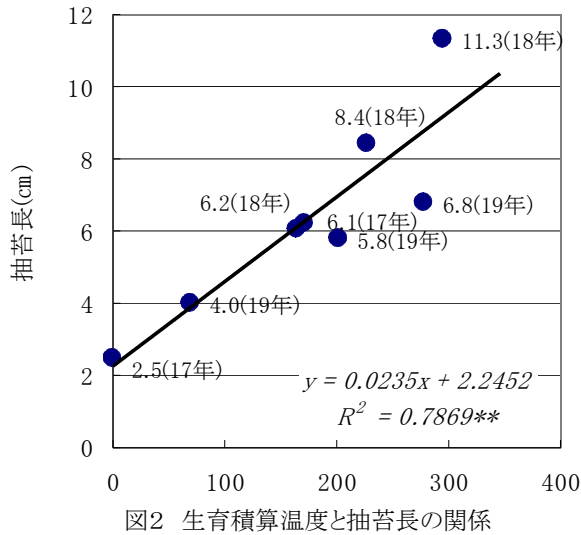


図2 生育積算温度と抽苔長の関係

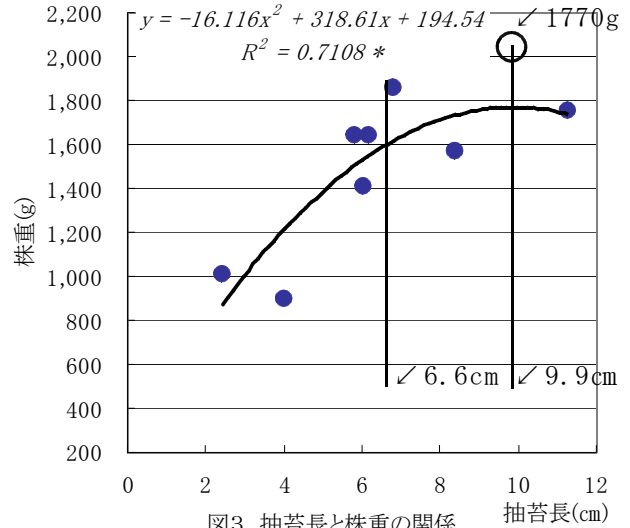


図3 抽苔長と株重の関係

[ その他 ]

研究課題名：2) 諫早湾干拓営農対策試験(2) 営農対策試験②施設野菜栽培法  
 予算区分：県単  
 研究期間：2004～2007年度  
 研究担当者：小林雅昭  
 既発表論文：16、17、18年度諫早湾干拓営農対策試験成績書